

テュートリアル課題 運動がしたい

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-01-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00031806

2012年度 Block. 4

課 題 No.3

課題名：運動がしたい

課題作成者：整形外科学

萩原洋子



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

シート1

薫君は運動が大好きな13歳です。小学生までは、野球チームで運動を週1回していましたが、たまに肩や肘の調子が悪くなり病院に通ったことがありました。

薫君は今年、中学生になり違うスポーツをしたくなり、バスケット部に入部しました。部活動は毎日行い、始めのうちは慣れない運動で全身が筋肉痛でした。

1週間前にジャンプをして着地したときに左膝に激痛が走り、一時左膝が伸びなくなりましたが、最近は少し痛みがとれてきました。部活動を休みたくないためお母さんには黙っていました。

お母さんは薫君が最近足を引きずって歩くことが気になっていました。

シート2

1週間後の夕方、学校から自宅にいたお母さんへ連絡がありました。
薫君が部活動の最中に左膝が痛くて動けなくなったため迎えに来てほしい、とのことでした。
お母さんが学校へ到着すると、学校の保健室で動けなくなっている薫君がいました。薫君はお母さんに運動を始めようとしたら痛くて立ってられなくなった、と説明をしました。
保健室の先生から、薫君の左膝が腫れていることを指摘され、この後すぐに病院へ行くように説明がありました。

シート3

以前野球肘の治療をしてくれた近所の整形外科へかかることにしました。
問診の際に、いつから腫れていましたか？、熱は出ましたか？と質問をされ、お母さんは、特に発熱した様子はなく、3週間前にいつものジーンズがきついと言っていたことを思い出しました。
レントゲン検査をしたところ、ほかに詳しい検査が必要であり、大きい病院にすぐ行くようにと紹介状を渡されました。

シート4

かかりつけの先生が紹介状を書ってくれた病院は、がんセンターでした。
お父さん、お母さん、薫君でがんセンターへ向かいました。
いくつかの検査を行うと担当の先生から検査の結果の説明とすぐに入院が必要なことについて話がありました。

シート5

入院後、担当の先生が、紙に書いて薫君の病気について説明してくれました。
両親は先生に色々質問していましたが、薫君が先生の話で覚えているのは、がんになったから1年間学校に行けないということ、運動ができなくなるかもしれないということだけでした。
生検の後でもう一度ゆっくりお話ししよう、と担当の先生は付け加えました。

シート6

4ヶ月ぐらい抗がん剤をした後、手術をしましょうと、担当の先生から説明がありました。
手術の方法を聞きましたが、手術の方法によっては運動はできなくなる可能性があるといわれました。

シート7

手術も無事終わり、また抗がん剤が始まりました。

お母さんは、こんな小さいときに抗がん剤の治療をして大人になった時に何か障害が出ないか心配でした。また、大きな手術をしたので身体障害者に該当するのかなどを担当の先生ともう一度話し合ってみました。

薫君は担当の先生と今後の運動について度々相談をしていました。

シート8

再発や転移もなく、薫君は大学生になりました。大学では、車椅子バスケットボールの選手で活躍しています。担当の先生からは、手術して10年再発や転移がなければ完治だと聞いていました。最近、人工関節が緩んできているのが心配になっています。